

あおやましんめい

青山神明遺跡 (本発掘調査B)

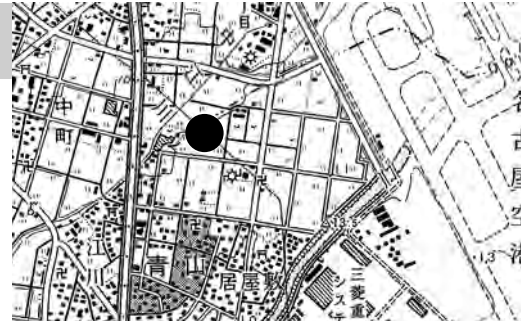
所在地 西春日井郡豊山町大字青山字金剛地内
(北緯35度15分42秒 東経136度54分39秒)

調査理由 愛知県基幹的広域防災拠点事業(調整池)

調査期間 令和6年4月～令和6年7月

調査面積 5,047㎡

担当者 鈴木正貴・酒井俊彦・梶田真由



調査地点 (1/2.5万「小牧」)

調査の経過 調査は、愛知県防災安全局による愛知県基幹的広域防災拠点事業(調整池)に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け、令和6年4月～7月まで実施した。調査区は神明公園から西へ約400mの位置にある。調査面積は5,047㎡で、調整池地点をCa区、Cb区、Cc区、Cd区、Ce区に、南に伸びるボックスカルバート地点をDa区、Db区、Dc区、Dd区、De区、De区に区分した。

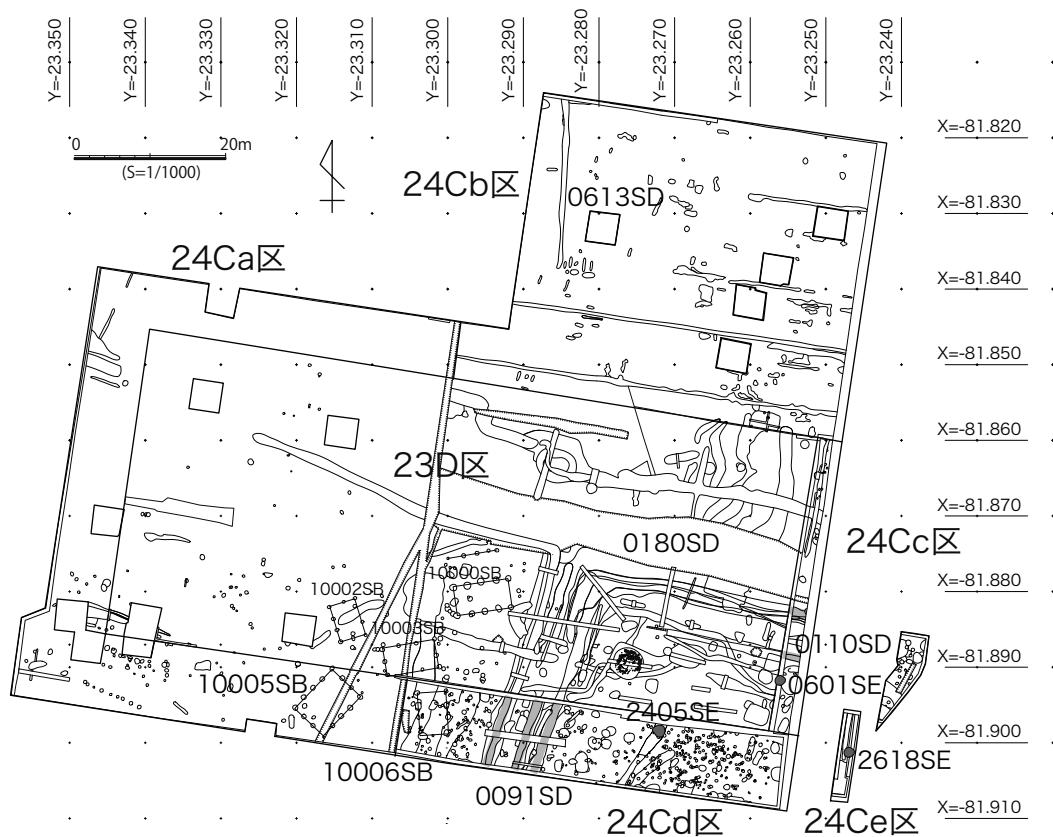
立地と環境 青山神明遺跡は、西春日井郡豊山町北部に所在し、小牧市から続く低位段丘上に立地する。調査区の北西約150mに中江川が流れており、標高は約10mを測る。

調査の概要 C区は昨年度調査した23D区の外周部に相当し、Cb区、Cc区、Cd区で弥生時代から江戸時代24C区

時代の遺構が多く見つかっており、これらは4時期に大別される。

弥生時代の遺構には土坑1580SKがあり、弥生土器壺が破損した状態で出土した。

古墳時代から平安時代の遺構には掘立柱建物跡や竪穴建物跡などがある。1030SKは古



1面主要遺構図 (1:1000)

墳時代の土坑墓と思われ、須恵器杯蓋や土師器甕などが出土した。掘立柱建物はCa区から、Cd区と23D区にかけて側柱建物跡が5棟検出され、竪穴建物はCb区南半から23D区北部にかけて10棟前後が発見された。竪穴建物の残存状況は不良で炉跡は不明である。

中 世 鎌倉時代から室町時代の遺構はCb区、Cc区、Cd区で掘立柱建物跡、素掘り井戸8基、円形周溝遺構5基、区画溝、土坑などが発見された。Cc区、Cd区では23D区から伸びる区画溝群が継続して検出され、この溝群の北側と南側に多量の柱穴があり、掘立柱建物が繰り返し建てられたものと推測される。井戸は全て素掘り井戸で、円形周溝遺構は内側に地山起源の円礫が散在しており塚状の土盛があったとみられる。

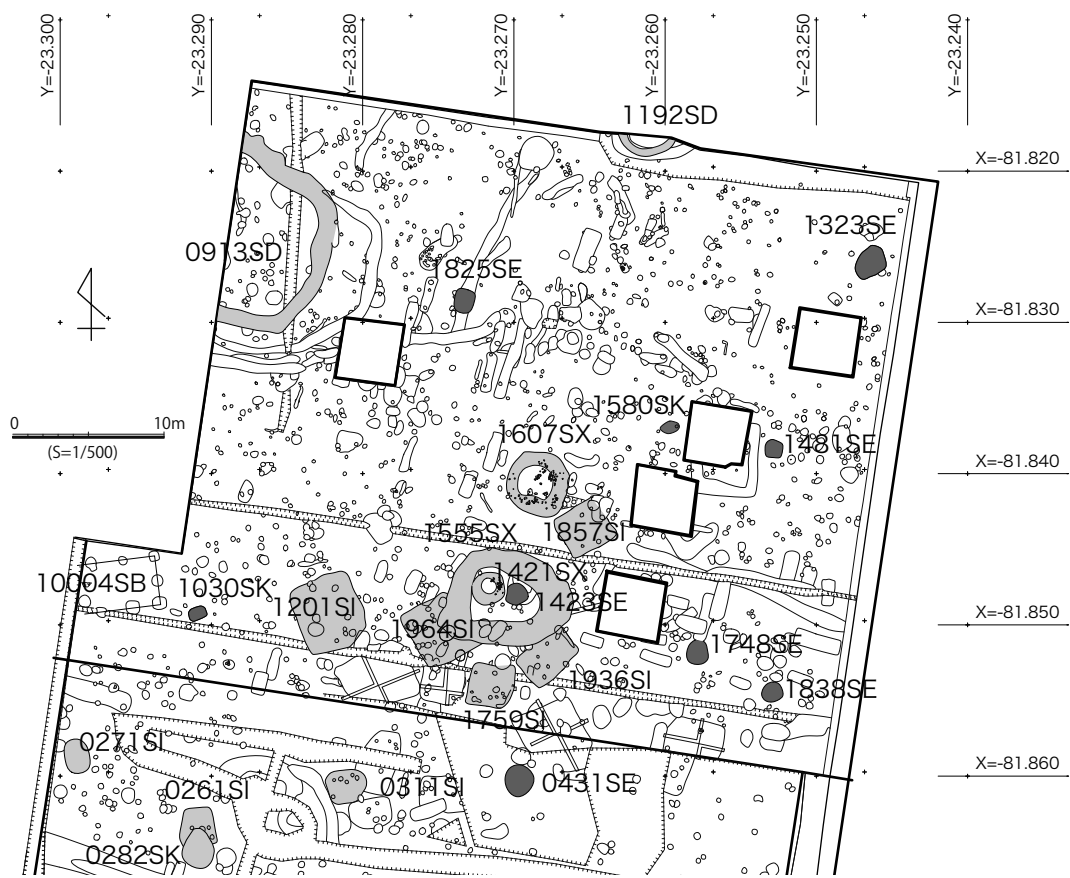
近 世 以 降 戦国時代以降の遺構としては、東西方向に走る大溝1580SDや江戸時代後期の溝0163SDなどがある程度で、戦国時代には集落ではなくなり耕地化したと思われる。（鈴木正貴）



Cb区2面遺構空撮（東から）



Ca区10005SB（北西から）



Cb区2面主要遺構図 (1:500)

24D区 調査範囲は豊山町給食センター西側の南北に走る道路中央部である。幅約3m、南北長約200mの調査範囲に南よりDa区からDf区の6調査区を設定して調査を行った。Da区は浅い谷地形となりDb区から北はやや高い微高地となり北に向かって基盤が緩やかに高くなる。またDe区北端からDf区の南半に狭い範囲の浅い谷状低地があり、Df区北半は微高地となる。

Da区は遺構は検出されなかった。中央部分の谷地形最低部を中心に低湿地の堆積層が確認された。Db区は微高地の末端部分にあたり、時期不明の幅約3mの浅い東西方向溝と数基の小土坑を検出した。Dc区は中世の東西方向の溝3条、土坑十数基が検出された。Dd区は中世遺構が比較的多く検出された。直径2m程度深さ約50cmの大形の土坑3基、小土坑数十基、溝数条が確認された。大形土坑は井戸的な機能を持つ可能性がある。De区は中世の小土坑と井戸1基が検出された。北端部分から基盤面が下がり、やや低い谷地形となる。Df区南半は浅い谷地形で基盤層が湿地性の堆積層となる。遺構は時期不明の土坑1基が検出された。Df区北半は微高地となる。中世の溝数条と土坑数基が確認された。

24D区ではDc区からDe区に中世の遺構が集中する。掘立柱建物およびDe区に井戸1基とDd区に井戸の可能性のある大形土坑が確認されるなど、微高地上に中世の集落が展開すると考えられる。
(酒井俊彦)



24Dc区完掘状況（北より）



24Dd区完掘状況（北より）



24De区完掘状況（南より）



24Df区完掘状況（南より）